湖月抄
五

秘閣藏書

若葉下

花巻名に相をりて号を　細　世を去りにてうてんとあと
ひとりとなる事かわることよりてうてんに位上八六条院の法
賀下八朱雀院の御賀上下ともよろこの業をかとせるなる。
上皇の奥よりひるさ事をとりあつふ伯法とうとうもとうり
しいもへどもとりあつ源氏四十一歳の三月より四十七歳の春よ
りてうり四十二より四十一歳の四ケ年のまハ比拍子
よりてうど花名より四十一歳二月までのまハ上皇よりあり
ちとく紙とも上皇の東と三月のまあるく花四ケ年の
中間ちとく比皇の御よりあるく年月をとなりて
内の帝代法よりてせるく十八年よるせるひぬとうり源氏
院源氏四六歳の時に法をとづくせまり　をりてうり
あるべきことのまり

こしらえとハ　細　法華法の名
まりの法華　細　法華法の名　花上
皇の東代御よりてけて
るべしこの法華のの
ちをとる

ちいつとふ　細　ちいつとふ
でやるどく　細　法華法の名
ひでうをるぐうあうてハづをぐけん。
うのひ　細　法華法の名
きとのく　直よ廿三のゆをるとうあり
哭ゆりせ　細　法華法の名
うをふ　細　法華法の名
ゆ。院の　細　三月海日
ようつ　細　法華法の名
ちいつ　細　法華法の名
ちいつ　細　法華法の名
ちい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

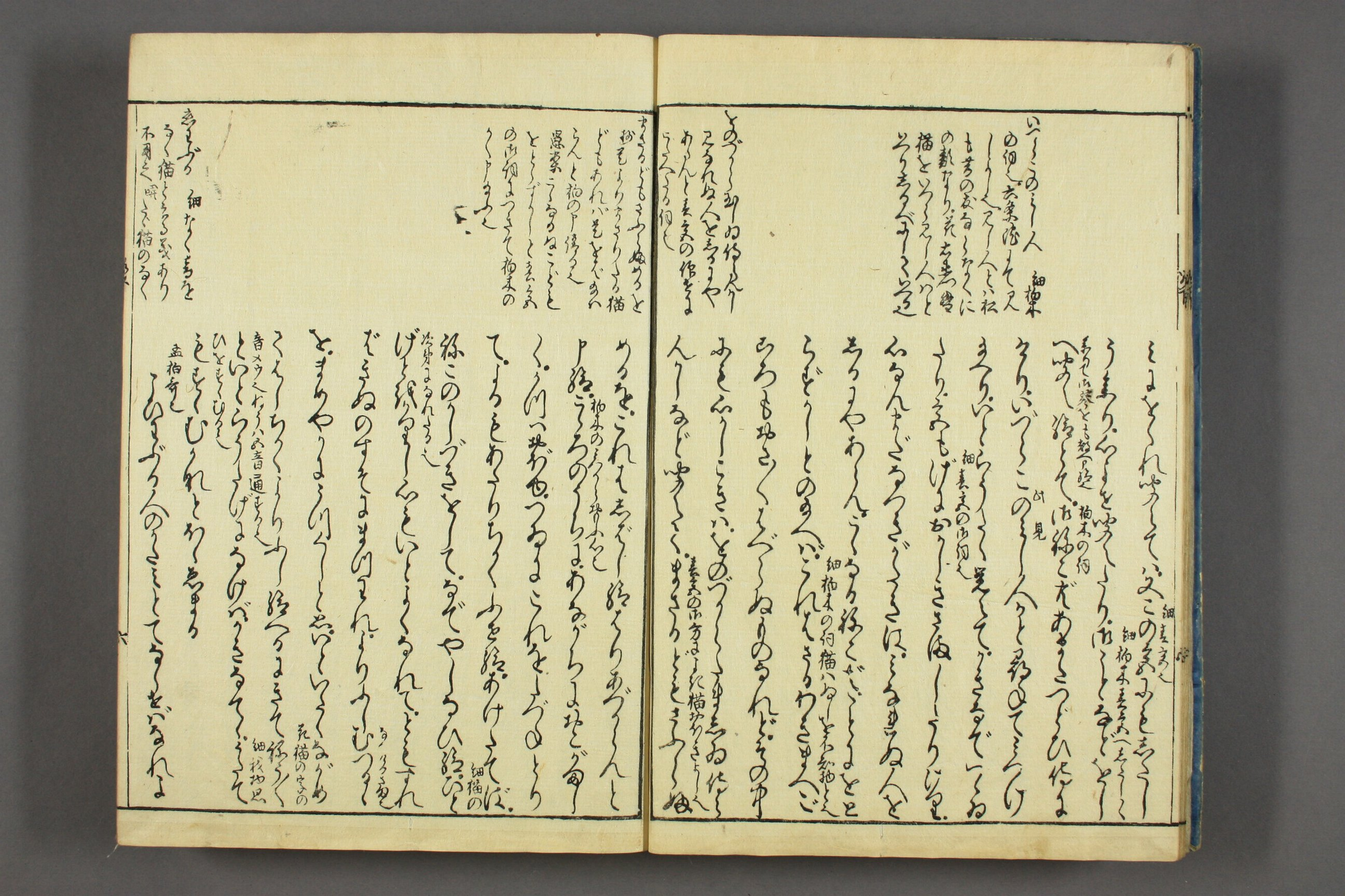
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まぐれあれば或アるの
文とゝ文とゝククりとゝ
出式ゝんゝの宮ハびおの
詞ゐも天ゐめりゝとゝ
ふゝ

あゐりゝゝゝ
細あゐりにんゝとゝて
ゝぐりとりゝゝ孟ゐく領
章ちゐゐゐといぐゝ宮
のゝゐゐゐゝ

大文ゝん女ごあゐゝ
細嬪女ゝひげ足の寥
ゝ離別せゝ又ゝ女ハ
ゝて内ゝゐゐりゐひ
ゝ秋ぬ中文ゐけゝ
ゐれゝく后ゐゝ立ゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゝゝいゝゝ世ゝゐゝゐ人のゝくゝゐゝ
ゐゝくゝゝゝゐゝのゝゝいゐのゐれ人のうゝこ
くゝゐゝゝれるゝゐつゝゐゝとのゐてゐゝ
ゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

の給へ。内へまゐらせどもして高よをあまたの所とんあくらうのうらとしてとしてうのくに物ぬかるとしてのうのうのこぐらてうるもの

古事記よりあらはれたる師匠さんの考へ記法とうのうのうのうの物蛍文さいさ柱へ体をたりうのもの

うのうのこの中みく細二年秋うして春行へ里武故紅梅の大臣の宴よりうのうのうて年月を

細源氏四十二うの里文をのうの武内よりへ一の石

ぬうぐあみれそぐれとひのうのふと細春のうのうとりうのうのうのくいとゆのうのうのうのぬとのうのうのう

ちゞのゝうちなりく
花山院大臣殺仕の例
なりけるこゝろ花山の大臣
殺仕よりゝ〳〵てそう
但天暦三年正月三日是
日太政大臣殺仕表従事務
省奏進有勅答不許
見李部王記
ゝうゝうとうゝん
栗河殺仕冠を脱する事
一部今ゝうハ出仕をつゝ
隠居すゝをつゝ付ハ冠
もいゝまゝきけり
花山院よりゝてゝ世の
中とは栗田関白道兼干
時太大臣殺

中のやうゝうゝ
かゝうゝ
こゝうゝ
きみゝゝ
ゝゝ
と
ぞ世中の
殿の女御
の
ゝ
ゝ
ゝ

例のたよゝうゝ
師々等ハ花中ゝよてゝ
ゝゝ花山ゝ
花山ゝ

泉涌寺のはつゝ　細　泰雀
院の西方ゝうつゝ
ゝと
泉涌寺と
帝と
泉涌寺
泉涌寺
泉涌寺

方のまゐりたりけるとぞ　細六条院のゆかりなりけれのあれぐ
男ども　やうやうさはるまかりてゆくゆくてゆくまゐるべきよつぎ　畢　北泉殿
のまゐりてをひみつよ　源の斎通のまうれをあるこれを　おもろうづりまして世をつぎま
はまくまくまく

とくまりてきゝくしく
お宮と仏よとこそて
ちゝくしく世ちうんを
いくと廻りもとゝ
あるせよちうんゆあるあ
おみ法たにくゝらとう
へまもも日およ宮のう
つうんあをうんいんく
ゐりゝ
くこゝるさをきこゝの
ゆあや　細明天神文法
上と宮母のくゝくし給
つくゝ
ゆくさゝのり
お明上の今りて母
もひうゝれゝのり世と

ゆをうへのうひくゝして
孟目白色河花母伏ゆて

ゝらてゝゝのう書妻
紙ゆくゝくゝして世ゝ
のゝをゝて八月ゝ
ものゝく仏月をのゝひ
明ゝて白ゝくゝるゝ色

けゝうゝれゝのゝゝうひゝをて
細天下のお母をゝ
でハ仏落ゝをゝくれゝゝゝ
ゝゝうり

ぐさうれゝげゝうゝゝあゝよゆてゆゝ法を
ゝゝのゝゝ孟ゆゝ女ゝの明の彩ゝ
表ゝゝの女ゝれのゝれゝいのゝりよゝゝで法ゝんゝて
ゆゝ入道の彩文の法
よゝゝゝあゝけてゝれゝゝんゝゝゝれゝゝゝゝ面ゝくゝのゝゝ
ゆゝゝゝゝ

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

八月の比近衛の官人ども、陳内祭の御樂調樂とて、近衛陣にて是を奏し、[illegible]
多くは、兵部づくしに、[illegible]
の時分人にて、八位れど、二まとうさびくいたる。
[illegible]
師加階従ら、十人、[illegible]
の初より加階従ら、[illegible]
の不役ども、[illegible]
[illegible]
細位者にて、[illegible]
の女人なり

ひまぞひ　細ひまぞひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

近衛づくしの名、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちぢのえを　喫　ゆん尾ゑ
の内をすし海をしるよ
らんとこ郎尾のゑ
細　為白ゆく紙為のこと
をちろうんとろる白白
し海よいろうひをな
ぐちこと
むーこと　細　あまをの
ひろう海ゑ　みゑゆゑ
上の新氏ろう　毒氏と
りの一ゆこ　喫日義　盃日

しくこ海ぐよりのれーこ紙ゆゆ
しこちこといここ
すこのこ紙いろうひあうぐここふこ
みうあまもふやまろんどくいぐんろ
らんとこ郎尾のゑ　ぐこちひまろまこ
尾ゑゆん毎紙　まこ為
ゆうここまげこれねすこうの
祢乃ろうころよつけこゆこひうぐこ
ろうひと取あこびあーまふゑゆの月
ろうよすこここのりて坊ろくこ
ろうよふりのいここちこうとこて　われの紙
を表の文ようろうこをこのちふこうゆ
らと文まひてこうげのここそぐろさ
むく面白ゆこと表ここちこそひこちふい

こうぐこうこの物人
盃　漢上門外へ出ずふこと
八今こうめこうに君
耳八唯南堂上言君眼不
見門前事　白氏文集

すこの江の杉よ　細　紙漢上
の奇こうめこうこ毒
仰　祢前の秋浦さ杉の
表と陽こえ文ふんよ
呈祢のけこゆろ
ここ何ゆ石のこ毒を
ろうーー
ひこのゆこ　細　紙ちのよ
紙ちこよろこうこ
杉のこの表のろこ毒を
尺こく紙ちここーけを
こやこゆ出せここ紙清
輔朝臣袋ちの紙こ文時ろ

のこんこのこれのこちこのこ
よこのここけこあ網久のあこびこ
ここりめこれをひこれ（こ盃初の点）れここちこめも
のこゆこここ紙ここでまこてここやこあや
ゆこここ（紙）このこ乃杉よこあここ表い祢のこ
あのこちこ盃ここちこ紙ここひこ紙ここひこ紙ここ
こここここここここここここここここここここ
のゆこここここここのあこんのひこ
こんこいひここ書れあこここここれ
いまここのゆこここ紙ここここここ
これここ（紙右書）ゆこ紙ここんこ女れのこ
祢ゆ人のこよこここここここここゆゆ

[illegible]

神人の　お詞およぼす。ゆかりけそかいお綿盛ふる

細殿上の女房

[illegible]と中勢のえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けづめをとりて、おしきりけづんとりつでれて、ものまちうちすとぞ、ちとびんちぐ
いめよつうてめでしといはりつる尾ぎの
おまんみちとんうちのわしうちよあ紙ちび
のはりてありてさうじのをまつうて、
めぐ海しさ女のすくとうちとのぐぞいは
ちうちぐちうちちうでちひしうちく、
しくしてどづうさ作ぐうう、
海ぐよ布をげるもとうんさはうぐ
のをうえうをつうう結いひでうちもう
ふうさうむつうさうぐとうれぐうは
海をとうの入尾のさうどうぬよは

（細織く服うちうち 黒同じ わ袖のをりてよ
うちうち絹も尾うれ
ぐしひきうち
をのぐぐいちううぐう
うう 面 後言うちうて
ふ言ふ袖 女房うぐの
いふうえ）

（孟 吉表紙ちぢ 戔 香 織）

（孟 遠遥也）

（ぬ今ふ）

ひてうちうちうちひう
うちうちうちもうれい
細 張切 面白さ出ち
めし
うれうりうあうとも袖
いれうちいうちうの袖

と言うてうちうち、ぐ紙
のうちうを袖をえぐうちうの
海ちうせあうちうちぶ尾
うちうようちうひうちうい
うううちうちうとうの袖
入尾のうううんて出ち
うううんいうちうくや
のうちうと評判うく
ううれ細 が殺文ちて
出ちううて尾者うう
うんのうう
うぐあうう が同世俗う
袖をあううううとうう遠
あううのうううすうちうう
つううう 孟 故云うう
て尾ちくうと者うんうれ
いううれううう が殺云
ちうてうう
芸秋の彩章 細 朝親の
行幸也 二孫 朝親とい
天よの父母ちまうんあう
あう毎年芸と秋と
ちうよの父母の内百人撃
うう、ぐ此ちて

（細 ちうよ此 ぐ尾ス ぐうんとうちうとうう
うう
細 生年雅 ぐ尾ス ぐうんとうちうとうう
細 ちうよ此 ぐ尾ス ぐうんとうちうとう

[illegible]
この俗をば 細 係をば
[illegible]
くはらくはらとして
[illegible]
二ふよりうりうひて
細 女三宮 二ふよりうり
[illegible] 花 二ふ 釈 [illegible]
八封 二十五戸 位田四十
町 [illegible] 戸八氏戸
千戸五戸と八氏戸をもて
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

用ハ宮也律ハ寒呂ハ温也
又琴有大曲中曲小曲
出太平御覽云
そのさひさめるさ 細 花
師曠とひろり花樂書曰
師文之変易寒暑孫登
之感動風雪云云謂琴
事也琴書曰師曠普
樂官也上於琴能易寒
暑五風雨為晉平公鼓
之感玄鶴六下降

さひぐさそゝのさひをめるさ紙とゝの
へいでゝやんごとなくそてのくぶりと
しきさねこ（お女三のゝゝハゆく）
かたちやうるれどやうゝくゝわえ給ま
ゆゝいとうゝかう給ひろいとひとちげ
くゝなる紙ひゝゝびもゆめんをいとゝ海を
（細中ゝゆゝく世をゝハをゝ）
ゝろあはゝゝゝれだゝゝくゝちんをづ
（孟嘗上）
ゝゝのゝろをゝめなゝんさゝゝゝい
ゝも原のれ勝をこひて女三ゝ殺ゝと云ゝ
みをそのゝゝゝいれいゝ海ゝゝゝまひゝくあけ
（細ゝゝ女ゝ）
ゝれゝゝへゝゝゝて給女れのゝみゝゝゝ
みをゝゝゝんいゝゝゝゝゝまゝり給ゝゝり
ゝれいゝこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
（ゝゝ女ゝのれゝ）

十一月 細 一本十日とあり
十日又祇今食潔斎の
日ゝゝれゝゝ又十一月を
祇ゝの月ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

そのゝれ月 細 人のゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひゝ給ゝんとゆゝゝと云ゝて女れをわざ
とゝゝゝゝゝゝ海をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
（異白ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible] 細 [illegible]
[illegible]

院の御賀 細 朱雀の[illegible]
賀茂川[illegible]
つきかく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

九二三年　細今年九一歳
ゐぐし・ほへとちりぬ
年十四とみくちりそ
のちハ年ゐなりぬ

九一二年　ミジイイチニ　お点
くちこれなりよ・きびいちらんらしてかそ
くめえうよりけうくのそえて結流よ　ほの流通
お朱雀（女三の久くくえて　ちりぬる
をうしまつぐくとうへめうとね

ぬるをうしはのいとうんなりしそれこ
うもみこのごろのりくさんぐのそれ
めうさすぐをよたこあくなりよ
うめうさすぐをよたこあくなりよ
ふんうくなりうこうこのれうとこのれうとろ
ちぐしうくうくうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ゑ殿とそあり。桜川ハ男子なり。
あとめく　細　[illegible]ゑ　あとよハ表ゑく。書冊ハ濃青に黄とうゑ
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八条宮ゐんの
えのかたとのぞきたまへれば　細々書きのうへ
のぞきたまへ　盃々書
のやうなるものども　硯箱のぞ
きたまへば　作り物　蓬莱
ゐんの前の　人々の花の
ほとりなりけり

うちとけたまへる　白雪花鬘　空薫物
緑絲毛頭不勝寛　白氏文集　嘗の風
御　ものの音　御
て物とかき　具平親王

きこえたまふ　果ものの方とのぞきたまへれば　人
うちとけたまへる　三の折
そのうへ　あるかぎりも　白ひやうし
れぐ　いとあてやかにて　二月の中十
日づきのあかとやきの　ものよりうつくしう
しめたまへる　うちとけたまへる　嘗の風
れぬべく　あえかなる　絵さうしのりそな
ごよれば　ものかたらひ　ものいひ
のいとこの　ものしたまへる　ものいひ
ちさきの　人の　花
のいとはなやかなる　ものいひ
のいますこしうちとけたまへる

けうとくうちとけたまへる　咲けるさまの
くれなゐ　ぬれたるやうなる　ものの
つくづくとながめたまへる　ものの
けのいとらうたげなる　絵　ものいひ
ちりぬべき　紅梅　細殿
がしまひ　ものいひ
そくよりうつくしう　ものいひ
うちまもりたまへる　ものいひ
べとびとびにうちとけて　進賜
つせまりて　ものいひ
つつやかにうちとけたまへる　ものいひ
ものいひ　ものいひ

けうとくうちとけたまへる　ものいひ
うれば　お腹　ものいひ
のうれば　ものいひ

ひとつとぐ　細殿のおよ
わかさうと　楊貴妃を
牡丹よりけ　うち唐朝
よ　花といろいろ牡丹
のこと　紙朝の花と
ろ　ハ　楊のこと　され
ば　故もかたきの辞　うち
そ　ものうもそぐれさ
ぞ　いつり　白楽よ
ま　きうむかたきさ　表
う　れいわうこと　茶花は
ま　ものうに　孟月松
ま　夜　成　奇と

さ世よるくいうてげるよひ　ひ　こ　れ
のうへ　ハ　えびぞめよやあ　ん　ぞ　こ　こ　ろ
ち　さ　こ　す　蘇芳　つ　の　ほ　そ　ぞ　ぶ　ぐ　の　さ
海　ち　ね　ら　ち　く　ゆ　こ　こ　よ　ち　こ　さ
ぞ　こ　こ　さ　ね　よ　ぞ　ぶ　あ　こ　ま　ほ　し　く
わ　こ　り　こ　ん　ひ　こ　ら　こ　ん　ら　こ　て　む　と　い
ぐ　さ　て　こ　こ　よ　こ　こ　ま　ま　ま　を　の　こ　り
ま　ぐ　れ　こ　ま　ひ　け　ら　ひ　こ　こ　よ　ま　し　こ　ぶ　ら　ば
わ　こ　り　よ　ま　ま　い　け　ま　ま　こ　ん　こ　ね　ば　い　と　ぞ　こ
と　わ　こ　ぶ　ぞ　ま　て　ま　ま　ぞ　ま　こ　ぞ　こ　こ　こ　ん
づ　く　ん　の　そ　こ　ゆ　ま　こ　さ　ま　ま　て　そ　こ
こ　う　と　す　く　あ　て　よ　ま　ま　ま　ま　く　こ　ま　御

うと　和のうのうろうけ
ものうり　うもく
花　うと　和の　蕚と
松　行　ろ　ハ　こ　ま　や　松　蕚
上　の　蕚　と　引　け　ま　ら
ハ　ハ　く　ま　れ　と　ま　す
ら　ま　や

さ月　月　細　楊　ハ　月　よ
ま　ま　ま　ま　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男感陰氣秋思女也討注

呂ハ律の六ツ律ハ秋の六ツ也

黄鍾ハ律呂ともに陽律ハ陽正也呂ハ陰助也然ともに催る系ハ呂律ハ

ひて律を次ハ呂律ハ愚漢志ニ云陽律為律陰律為呂ト云ハ

異朝ハ律を陽とし呂を陰とし律を陰とし呂を陽とし律を陽

とし呂を陰とし細人ハ漢の

あこれ人ハ細人ハ

ものこと細人ハ

ものこと

男感陰氣春思男

細ハ

細ハ

細ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めくれとあり。給さま
ものうるさきをわろ
つけうらんをびり
ゝうらみうや

ひいらつる　細吟上乃
琵琶弾ハ殺に入せうる
ゝ　吟上ハ俗の事ま
うねとも言てハ又
ゝうるゝ

れてこ　細あり方言
ゝ　ゝ自称ゝ
ゝ

くのひてゝ結つれとめでらゝ　細原
の見盃それ行はいかさゝ
さゝくしらゝはよいあゝぬとわゝ
うつくしゝとゝうるさゝうゝてゝ
れくゝ　おいれもゝうゝと原とのこ
ものよ　おほのう
ゝ　ゝ　ゝ　

さうひて　細弦の楽器

琴の事よりこがひらし　琴　諸器琴音うるさうふるや事にさ
ぐひて個わるるるうるの
うるのくるの　細うるの
弦うるこうけうこ衣婆羅門僧正婆羅門僧正婆羅門僧正

のちこれをひく人ふかく
琴を琴のかたちにつくりて
琴をかなでうたふこと
ふかくこれをもてあそぶ
うんのねをとるべし
河東要略之中に琴の徳を論ず
傳ず文選琴賦

りろうこまくせよま
ちのあるとき　孟子
せの中よりひろめ物よりも
ぬし　琴を執るを
とても親をとるべ
ハかりのことにあら
ずとぞいふ

ゐの日本書目　藤佐世撰
琴経一巻　蔡伯喈撰
樂書四巻　琴操三巻　晉黄
庾相
行狀　琴法一巻　琴録一巻
琴徳譜五巻　雜琴譜百
六巻　狄畏
のちくハ師とすべきなり
琴を師とすべきなり
ゐの伯牙琴を師とす
琴師とすべきなり
師独悟の人なり行ふ
もとめれハ自得する

このたにるんそさまで
ぎくんとの　保の出陸
のそのうちの中より業量の
人なりてすくそんなで

ものうりのいとんやゆりくのちくべどうど
ほの琴をとるひまをうちうち
みはせよあるをくはよりしさうり
みはせよあるものうぐりあるとくハ師とすべきなり
そのちくハ師とすべきなり
ちんこのちそうひしどるあり　上古の人なり
れのうぐりのんみはあ　ゐの源氏の物
きとうんの業量のうちを後のうち
この後とひてはつとうるべきすもりうち
いとう衣とうるんるどのうへぶるげよいとに
とうりあるうぐりとゆりとこのうちうち
伶倫なり　ほの角　細　ほの角　細
中よそうやひつぐ結ぐ結ぐその
しよるんそまるぐんしゆうや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟相蓋帝四之元

細 福緣

細 蓋上之孟蓋を

細 女三之元

細 嫉妬の別のこと

孟 后をそ

細紫上の御
孟人の母
細源の御
細蓼上の
細花散里
孟そうしの上を源の侍所と
細蓼上の
孟そうしの上を源の侍所と

細紫上の御
孟人の母
細源の御
細蓼上の
細花散里
孟そうしの上を源の侍所と
細蓼上の

みわがあやまちの細み細のわらせそのよ細とゝ
よいひの奎えうこ伊葵
上のあまりんふくて
くらゐ細はいぐりしれな
ゆゆゆうゝぐりしと

ゆくさゝゝぬとぐらよいらひしをつひよろう
と伊と不和ろうゝゝ
よゝゝゝそへぐてあろうらしてやこみゝこ
そ今そへいいとかゝくくらやそくあれゞ
わがあやまちのこもあゝぐりうゐぐ
んひゝのようんらひいづゝくうゝくとも
ゆうゝそのゝこれあぬるゝ
ゝゝをゆうゝぐいゝあうゝぐれう
あるゝゝゝくゝゝゝゝやうゝゝ
うんゝうよんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

細後悔ゝ伊葵
細葵上のあゝ
細賢あうゝ
細ゝ京

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中宮とくさうづきさうぶらとゝいひあうて
細 北の北の方の御事
のはなりはふりうるタ
そこそあるうめとハ
とひあうて恋ゆとうれ
てく涙のまゝ世をも
るゝ
うみとなきれめうん
細 於世ゆうるを治
べきとなり

内のおうえを 細 内の右上の
るかりうもかれ
人とをひしよをひの
ありよんゆうを人と涙
のゆうまゝ

人ぐゝとをひしもどうつきあうゝちゝ
て やうをみるぐうあよ中宮とくさう
づきれちぐうとはいひなぐゝりて
く世のそうゝのうゝとをうゝび
ゝせけるとおのせるぐゝもゝれをき
れめゝんづるもむうゝるをさうりあうろ
つゝりゝのすきひよいとあくゝやゝうゝも
ゝりくるんとうゝうゝの人れうゝもゝう
づのゝるひいてく内のれうゝのれうゝうろゝは
るよんゝうりの狂るゝびとあるつりそわ
てゝうやゝうゝをゝるゝ紙んのそゝう
ぐゝうゝうゝあうゝ人よるんうゝび

細 於世ゆうるを治
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の
細 内の右上の

と人ゝとゝゝむ 細 第上有
は島ゝ蓼上ゝゝゝ
ゝゝうゝゝれむゝ
ゝゝのゝゝゝゝ
ゝれゝと

ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうひつうやうよ　細　おなじ
のおんとうひもかうさ人と
の給へるを
人の母のうへ　細　女の母
は嫉妬第一の物なれば
ひねをるやうなる　先ハ
条ハ母の見れるを
ものさうれよび人のうる
ものとしまつりて出来ぬ
ハせうそこをうらしさせんと
おほの女三の宮よりおん
す教ぎりうんと

ハ母もかうして
ハ人をれぬ物なる人よ
おもうよい母をもつて
て世をりもつる御　小町集
女ハの母をうり　伊勢
女ハうり第上ハ
そこをれて第上ハ
ハ物ものうへ女ハも
業の母物を知ものうり
しるるべし
ぶうるそこをうり
女ハのをぶうるそこをハの
ハうへ第上のハうや
このうりをぶうまる

もくせもありうる母ありうへ人の母びうく
あるぬうるよすう物ものひうるれぬ母うて
やあるうるんうるうんおうるるくもあうう
るうるやひつけてうりけて物ほうのうも
ものうりあうるうるうるハるひとうれ　お連ハ腦中にをひのひとうれ
ものとうるやうう　第上の女房なり
ものうるうるうるうるうるうるうるうる　お第上の母をうる物
うるうるうるうるうるうるうるうるうる　女三ようやりてまいる
ものうるうるうるうるうるうるうるうる
ものうるうるうるうるうるうるうるうる　お原ハうるるるるるるるるるる
ものうるうるうるうるうるうるうるうる
ものうるうるうるうるうるうるうるうる　第上て
ものうるうるうるうるうるうるうるうる

うんとうのうるるよ　お原のうへ
うるうるうるうるうるうるうるうる　お原ハ原氏ハ
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる　第上のうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる　第上のうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる　細　原のうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる　細　北七家のうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる　お元ハ第上の物をうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゝしく　細人くのこと

ばゝ女はらからあつまりて語らひ孟月

しくしくなみだをながしてもくうこと

のしきりなりしかるに人のふりにしたがひて幸の若干もあることを

あるとそれをひろさうにいりのみはさいい

をそれよりこのものろさとこそ

できそこなひをばきんあるひとをさろ

ゆゝしくふるまひてもゆきうよ

しくつひにうしなくしてんめうをうばはるる

ふ人なりしかるに第上のをんなをつくるる

ど仏神のもこのたろだをのきづく

つくるさまをよりあうこめを世俗の

ちくさまふうぶうりのやんごとなきを偽る

どいとうるはしくいとうつくしくふるまひ

くよいとうるはしくふるまひてをんなを

していのりうさをすぐれたるをとこ

さのふさまをいつとなくて月日をすぐ

づひ給ふいつとなくて月日をすぐ

をいうまかりとをさまうろまづきさ

ちうやとをばくはりのけのまるやし

いくいてうりのこのやうさまそ

こうとうえてどそこにはよそんてうり

まふさ海よのこみあれいくものくれ

くいとづくばすよはこうろのいとまも

細人くのこと

とうとうしひろさ

細第上の旅あるをさ

てをりひあるくり給へ

ほ小取芋ゆ得福大

取芋大得福茅経法至徳要道篇

せづさのある人ハ

局量せづさ人ハとひ

富せうて一旦ある貴の

人とうれてもタ寛お

らぬ後やうるるみ

しくしく

とうとうきさ海よ

えうよ付ふた日ありませて

第上の病悩又ふた日まろ

しくていま重くなり

ゆくとく盃ハあり

病悩

まくらくや清の海の浦さえ
細 ふかく柏木のもりをいつ
つり ふちさえ春雨はまく
海の浦を通るより
今の世よ八つとそうくく
脚 柏木さえ今上帝の
山河うちそうくめ
つくしくぶ紅をみどを
もちへやせくん

なぐさめうるれ 山の紅葉
くさまくるつさしもや
なぐさもて山よ紅月をさし
細 紅葉を春雨の山をとだ

ひとかり世くいろうとうと
ぶ紅葉よ春雨及紅ふかく
さめくるつのうもも大和
柏木の中紅よくつく月
月を見くて顧やんとも
れとをよなぐさめ雖
しくくめうちくたぶを
とかくハ顧むへくと
ちくしよくうてもひ
とまて

まくらくや清の海の浦さえ八中納言よなくう
よきう いまのは世のは いとうくぶ
細 けよあるくん
えれく いと河の人なり分のぶ
紙 女三宮のひるま
あよつけても そのうるはぬうれて
暁 女三のあ 落葉宮のまく
さをふひうびて ひをのれあの二をを
んえなり
細 衣衣ととす
かつまりてぎくて ちくのるを衣ぐくよ
ひまくれぬやすくくまくて
落葉宮のひるま
ひるくくふれぬけてひをよるくぶをれ
盃 女三のひるま
どりとしうちをみくくそる紙みくく
女三の宮さハ女三も顧ぬとく 柏木をそ
つまれるぬぐさあくくをぬてて人め
なる休暑をぬぐよりてるーとく
よくめらまぐれりにもてるーぶを
女三宮

まくりるる紙のをくのうちをまくれぐふ仏
女三宮のれ乳母 ふ仏後八仏人のい
恨とふくくひくいを宮のれをぐうけめの
お仏後のあくのあ八柏木乳母
ものむをあなりくくそのめれをのあく
ぐ ここのうんの乃宮のれめけをりくれぐ
のくくまりくくけくくを女三のひるを柏木の雪とく
くくりけくくくをりてぐを宮ぶを
るくかつまもくはりいくをくくよ
るんかつまもくくどのくづをを紙
ふくくるるくるるるんかつ
つくそめくくなりくくて波もくるれ
六条院よ人めくくんをあいやりてく
おつまを狂人めもくくくくやくるん
をくくりてふ仏後をひくくりつい
細 柏木の何
くくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

但有さ奇みも口ぶりあり細流より門まで
そそんとするよすらるくさあるまでて 物語本の立出んとするあく女三の御方
めて見ぬ事なりしとしく五月雨の細日
あけぐれの 細のまハ物もの心ぼそきに 今物語本の出ぬ事なりしとしく
伊勢くさくさを義もとくくやゆびきよ伝聞ぐれよ 紙月くくくくくし
くくすやくくくくし 伊勢物語 妙なる出家
きくくくよ分をつるれ
細流の多必ん物ぐさし
神の中まや入よんの
伊勢物語 神の中も
入まんワ公まのかき
ちちもち 伊勢よ
くるれてとハ女ぶよ思
しくくし
ろう表のくくうよあん
くくくくく

（女三の紙と思ひ知るべしとて）
（細女三の病悩ようちとて）
（原女三へ）
（初女三の方）
（初原の方）
（細紫の上の）
（原の女三へ）
（初女三の方）
（細紫の上）
（原の女三へ）
（初原の方）
（細紫の上）
（原の女三へ）
（初女三の方）
（細紫の上）
（原の女三へ）
（初女三の方）
（細紫の上）
（原の女三へ）
（初女三

そひゆく高速うさつれて。ひそぐのを
どるやまゆかしてし 孟 栢の本もゆかしてし
つ。女房 細 二の本 女房 栢 栢本と後ノ人 栢 栢本の休息
しそるつ
そしなり
つまづよ
つのもう
栢 ゆるもうぐ
孟 まうの日ぐさ 栢
なり。世中
と。ふそのく
くるんばんやう
出ぐよ。當 栢 やうを
ゆ。女房
ぬ車のとしるぐ
あ。ふ 孟 栢本の
ぬつ
ぬ。女房

ねろ。ぐそ。栢より栢を
しをるとと栢 孟 わが殿を
ゆるとと栢 孟 おなじ
ゆるぬ。ぬ
ぬ。ぬ
ぬ。ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を。いとゆゑ（保のゑ）ゆゑしくゆかしくて、くるのくさえない
でまひるに、ぞまうでぞうち給ふらよ。（後西）
せうそこ（ふるり）をばいとしいとぎてとこみもあるうれ
人のしをばいけうひあるつるさらに人のひりうし
ものひ日みくめめはをゆかりぬ（かるる清之せ）ぞうら
つぎぐ結人まうり又くさしひめる人
いるるべえるがかぬこるりすめとさ
らみやいみるこもめるいうる人のい
ぐ世よるぐてよのれをとつさ（細女三えと）
じうこいてのんるるんいまそそ二ふ
えいすしのれをくあるれ結るめいてれ
しげよをれるつるれぬがしをるぐう

（嗜本巻のうえ）

ちらくめうさ世よひるるべきぐうら
らしとひくくふいれはうしもたぐ
弁以宰わるぐれくのこるのそこさま
ひうらくいひあるどうくみもひひうつ
（細巻上の妖滅のうとひあてこ）
ぐれるよううさ世よひるるべきぐうら
ぐぐひとりてうの後へこれまうり結ぬ
（二条院つこ）（陽本巻）
しうるこぬこるれいゆうくやとく
くくわうこのれこうひよ多るるるう
くくのうこさこそげいまくくわうきり
とうちこけぐこうて武戸の文をまこ
（細巻上の文）
まうて、いくくぬがわれうう西よ
てぐうり結人ぐのれこうこもえト

ゆうう、ふ世よ
ほうれんぐこそいとぐ橋
ハかぐこうれうこ世よ伊
ゆくくしうるぐこ伊河と云
くこうる雅橋ゆううやこ

つくんとあつぐ（細 枯タル芳）
出るつゆ（細 枯木の匂ひ）
しつれいぞんぐ（月花の匂ひ）
さ花はるや（おれ木）
まりつるぐ（細 タル芳の匂ひ）
へるとぶ曉（かつらき）
のびのわざ
治やうよ
ひめれどぞ
しさ
さるる
ヨがあ

つるかぐーさんちくひる
（枯木のうちさる）
夕芳の梅ぐんとう
ふりとうつく

くんちめ
かれまつ
さひつ（重病者）
アつと
ヨがい
きつさ
えのぐ
ちん
ぐびい
つぐれて
えちま
のらぐ

（細 ほのうちうめて）
（枯ほの匂ひ）
（枯女房ものうち）
（ほ宰 芳）
（枯 宰 芳）
（紫の花模ものうち）

らうぐ（細 花花芳）
自由
あのし
叶ぶれ
れと

[illegible]

[illegible]人 細原のたゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]
つゞしうしゝ

いひそゆゑゞ女の名ハ
細女人業障ゝ
涅槃經云もしけりの海
[illegible]
界男子諸煩惱合集為
一人女人為業障女人地獄
使能斷佛種子外高貴菩
薩内心如夜叉涅槃經
あ又人もこゝろぐらし
彼女系の型之日第[illegible]
原のこゝろもしを
のいひ[illegible]
[illegible]

でまてのゝ[illegible]
いつゞき[illegible]
[illegible]
人のれけ[illegible]
のこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

月のごとくにてそれぐしうるはしく
とりかへ面白くしかるに八月五日の
所なり

六道のことはり
お経の中にてねど六道
は陸中ろんぶん漢語とも
仏語は大般若。最勝王法
華経等
なりくうけなり
仏語の中のなかにて
みいろいろとうども
ときうえてなし
ろきやうろ　細雪六
物をかくしぬくらは
も仏語のかんまどひを

月のごとくにてそれぐしうるはしく
その丸色よ　紫の中氣色
つくんすうしまろーさきに海ちりさんどる紙
ちどうぐさわざ　日ごとよ法華経一アづくるやうど
させ給　ものよろれとうとうきわざとさせ給
時紫上の髪のかたち
れまらぐ迦てごんのことど給ことさ
うとさうとてまを給おくれそめ
ていはりくうものげるこどりはいどさ
らよりのくけうとてどいとであり
紫の中
給いいとていよくとうまいい
源氏
らんうるくきちげさうるるさやう
紫の中

なりくも給

なりひかりて　仏語
のかんを給りてはゆ
うどまりうとおりうと
さ給

六道絵は　仏語
つ給ーはは紫上絵会
給ーこうりうと　お源
の女三のかた方へいかとせ
ぬとと

なりかりてはうとくもかりうとくとんどうをくとくとうとうとう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つきるべきよのくらしをげるるもあけ
せまひて身しるさまなる
るひのくるるどのやうよりぐいとて
よいつけよおいつすとしばすうるとでもこと
しわれうつるのくらしあるこうつるのくらしあるこうへるくを
ばけよさんさのみくものはがしさ
まひうて　いとよつくろうれうやう
うげをんざいのうつけよくらしげなう
とてこうしてもあるでへよもうを
ぬりはをいとをしげめくうちすの
うれのさうさうされるよいとあるやう
うて　寄うるうくうとのやうよくうう
げううれとのさまよはさめどうてこい
ぐうまのいとめづくまれどうく
てうそうそうそうそうそうそうれい
うぐくうるさんうぐうとはげるうはう
ぐうのあうくうやうとはうりうく
いうくうもあうれとはりうく
ううううんうとうう
ううううううううううううううう
ぐうよるみうつうのううつうれづくうう
よまううはうとはうのうれどううみう
ううぐはいはりのうれどううみう
うめうんうあうるやうはうううと

とうれひううもうぐうけ
うううる　三とうれひうう
とはうのみも笠のはひ

ぐうるうんうぐうとはが
ゆう　三　笠のゆうはう
はうんうぐうとうふう
のうくうとう

うううううう　細　笠上の金
寄のううはうぐうの行て
つううううううあう。我
金う蓮蓮みうとなう。
笠蓮の寄うううとま
うあはうはれいうう寄。
ううううはうはうう
笠ううとうん　細　うてう
うふううう。はうの寄う
はう一蓮他生のんはう世を
笠うう　三光院

げううれとのさまよはさめどうてこい
ぐうまのいとめづくまれどうく
てうそうそうそうそうそうそうれい
うぐくうるさんうぐうとはげるうはう
ぐうのあうくうやうとはうりうく
いうくうもあうれとはりうく
ううううんうとうう
ううううううううううううううう
ぐうよるみうつうのううつうれづくうう
よまううはうとはうのうれどううみう
ううぐはいはりのうれどううみう
うめうんうあうるやうはうううと

細　笠上
笠
細　笠上
孟　着也　はうのううはうをうけてう
はう
はうのうう
はうのうう
孟　女三の笠の帝
孟　女三
孟　女三
孟　女三

うゑ雲ゐ　細　病のひま
し。秋の八月頃の夜の人も
あり。乳母、病の陸奥守
所に、しく女三をとゝ
るゆもるさに、くゐ紫
のゐ乳母の陸奥守、
女三へ、ゑゆまぐさ
とのゐし
ゑゐ、ゐんのをゆく　晩　人の
中の御のゆをんや去
うゑんとゐふをんの鬼
ゐゐ

ゆゐるびうゑんゆして
ゐ乳母上、鷹ゆどめて
女三のゐうぐゐひのさ海
を陸のゐゐひゆゐ

へめゐを、めゆ細ゐ
ゐぐ。女三をゐ
よ。うゐゐをまゐゐんやを。ゐゐうゐん
ゐゐぐしく女三をとゐゆ
うゐのをめ。ゐゐてまゐんもゐぐう
しく。ゐゐゆぐゐをよ。りのゐくゐゐ
ゐゐもゐゐ
ゑ陸ゐいゐんをゐゐゐ海ゐるぐひゐう
のゐゐをゐゆぐゐよゐうげゆくて。ゐゐと
ゆぐゐうゐと。ゐぐゐれぐゐくゐうゐへ
ゆゐ陸ゆゐるびうゐんめてゐれゐゐれさ
海ゐるぐゐゐ陸ゐ海ゐゐぬゐゐゐ
よゆんと。ゐぐゐひ陸ゐれゐ陸ゐゐゐ。

ゆゐしくゐゐてゐうし
ゐゐゆ。三ゐゐゐれ出
ゐゆんゆゐばゐうも
ゐく出ゐんゆでと不
寵ゐ海のゐひゆゐし
師女三の云ゆ花ゐゐ世
しゐゐ七八年へゐう
うゐんゆうんくゐゐも
三ゐゐ海の三人のゐを
ゐゐく。第三の右上ゐ花
里ゐぐのゐれお
ゐ変ゐうゐゐゆ　孟女三
の懐姫ゐ海の不寵し
ていゐゐゐゐゐゐひ
ゆ初し　晩　三ゐゐ
くもゐぐずゐてめと
ゐぐのゐゐを海の花
号ゐし
いつのゆゐよゐゐれ云の
ゆに。ゐゐん　孟海の
ゐ出ゐゐゐく二三日ゐ
ゐゐれ。ゐとのゐゐを
ぐゐゐて女三の出ゐの
ゐゐゐゐを出ゐゐで。

ゐゐ海ゐ
ゐゐのゐ
ゆゐんゐ
くゐ海ゐ
ゐゐゐ
ゐゐれゐ
ゐゐゐゐ
ゐゐゐゐ
ゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとくちりてさやうなる
孟　女三のうしろさまをねた
と恨みきこゆ
まして

月まちて　細　女三宮の
詞　久しくれいたるとどく
三條氏
のさうびたるとくしら
らぬ行ものの人を恨きて

細　女三の
ゆふ
ゆふ寄よ　細　八日歌の時
とよまていとそよまし
きすとしたおもひ
のとし　三日夕
のうくいの日のうく　俗撰
しそれをはつてうち
ふ紙神をめせと
のすくうちさう
さうなりけんなまし
三女三いしうしの
うちわくゆすてう神
まいさも　細　二条院より
もまうしくと物をし
とうやしいはりあ
日うくのなくく雲八三
きうれて　三うくよ八
紫とと女三とも　孟
はいう紫とと女三とも
うんと

女三
ゆふ寄よ神ぬをとや日ぐらしのうく
とうくゆうそゆうんうさやうけるは
うろよまをそいひいぐくまるもらく
さまれいつのおそめるうくやうら
うげさまふ
ゆふ
ゆふはもいぐうんうぐよう
ろはをは日ぐくのくふまぐゆがりやを
うひくうるけるひみくんをんぐうを
れいぐうるぬうんるくさぐよるぐ
めくれまそれうぐ物ぐうまうるぐて
ゆわうものぐりぬをのさうぐくの物よ
孟　ようくそくゆうう結ぐ

細 ほの二条院の女房ちらし書

しみがてらいでうひめれば ひとくすうわ
ぐれめろよ 行幸りてさのりれしい
うよとせまてしけさ後のけんじつ
みのうてて なれとめれば
きとえてすぐのでいてさ
よてうれいとかりきりのうしいうひ
うれうはやとてまつうづてよう
いとを結てしたでのまつしよて
わうがやらくうつくうつでとばうの
かやをいさうろのとめさりけりとう
いうばよろのとめさりけりとう
せ結いずうわがかりとうとう世
うひつんとうんふましとめ

細 ちの河

細 ちの河

細 初木

細 ちの河

細 ちの河

細 ちの河

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこりのすくなきまでけ
かりそくんよ
孟女三よハ仏ゝそてき
きゝてそやくゝゝり
きふそゝ紫の法人の
詞と

ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みくさんのそいぬみも
あるべきなり
孟宗がこの原氏のみ
をうけしもしあれ
ども終よりそうもてな
しとなり

ちうちうみつをゆ中をりれば
細殿とは殿をとの笑
つをみつを中をれば殿殿
のみとをけ月みたみを
をを関をみてをを入け
きと人のゆうをぬき

をををををををををををを
しかは仕殿ををををの
ををををををを

三　女三の宮をれ勝月殿
のみよりをもををぐし
をををををかをひをを
をををを

どうどうらくをくらうありてをれをみか
ををはゆやめをををどみくさんのそ
をみをををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
を

あまのつを　細　尼は
なりそうをとしそこに
はやすぎさく　紙分を
まのうらひもそうさ
ものうれでうり　盃
又盃を海の幸もうさ
ゆるればひろのよ　出家
世人ぞうの　墨様勝
月夜ひよ　源氏なさを
うしも　雅なるぞ　紙よ
くめれをあんみを
れアうぞさ　物をしの
うし　尼よりまうとを
くをひうめうこうれう
く　業　細　業平の作
山うりの　月くうひを
給まし　源のを海さ
げ給うるぞ
菊うり　細　四人まうと
まうねさ　紙うの　業う
とうり

源
あまの世をそこそよそうめやをすれ　お伽草子勝
よりかうれしもうれるくよ　さぬく
一のうり　世のうぞめるをとうろよ　お伽も出家の恋懐ありとしたい
集てうり　ゆしひつりて
いまくでを　とうれさてあううりあ　紙
源を　世を捨きうり
うしも　うぞうされうの
うりうり　盃紙をもうれうく
うりよいまひしてを義よるんみぞれ　勝のうを
わくいをしうりうりうりを　笑てううりみこ
うれど　このれうを海　げようぞひ
「お勝の浦の物語を妨をふとあううをぬ
て人ゆは　うりあうり給をぬうとれ
どんのうしあうれよ　菊うりうをうち
ぞうを　うをすぞよあうくしもゆぞうり
まぬうぞ　うぞよゆぞ出ううぞ

いまはうくしもうまぞうれみをのうり
盃をうとうぞめううぞと　三尼寄うく
勝のうく　鄙出めうてうをうり給
うんうりあうおぞうをうり
うればうぞめうとうり　三世の者
うをうを紙分一つうとうり
うをれめうと源の作
うをいうをぞうとうり
あまうよ　細　ゆんを上うる尼
ゆんとううり　紙分
ゆんよてうるうりうを
愚様　ゆんの源ようり
せうをうと　嬢部よをく
れうみうりうるうぞうを
をゆんの上うぞようう
うひて紙ようんをうれ
うひよをうをうんをとめ
ううぞ　細　黄及於一切
のうを　墨様　これ源の物よ
ううをうを出向のうり

いまはうくしもうまぞうれみをのうり
めうをゆんを表をううぞめうをうり給
ををうをぞうをうぞうをうり　細文の月
うをうんうをうをうをうるうを世をうを分
ひうれよのをうり給みをうれぬうの
給をせうをうるうんげよ
勝
あまぞうよいうぞうをひをうれうんあう
しの源よいうをうをうをうよいあをゆ
をうをうをもうぞうをうりうをあ紙びを
のうをうをうをうれいのうを　枝　尼
うれどうぞうをうをうぞうをうぞうを　風流うをうを　暁勝月
東のようをうをうをうをうぞうをうを　源氏の
をうをうをうげうり二条流よおう　暁勝月東の文を芸上あるをうを
をうをうぞうをうをうをうをうをうを　女云みもいまはうげをを

みてしかるべきことにて一切衣をよあまりの回向をしたりとも源氏よりいづくとも
なりかりうつくしふんあれどこれ見ぬ上のすをとりこうこの心をしり申す
勝の稽古のことばいづくあそもくらこうこうこうあり心をつあてこうべ
こえやうこと 細今とどめられたるこ 嗟 公家しきるこ

孟 源の実人の細

かりこうめられ主
細 山寺のこと 孟 ゆえ乃
帯よりこうせしとあるは
紙をとりづめこうこと
思案こうこう善きこと
こそもあはとあるす
しや
こうこうまこうせて 孟 ゆき
けともこうこうてすくさ
まんよは勝と樓とるれ
とせをそむきそせまま
せこうこ

づめこんこん。げよんづきるーや。源ぐ
よんがそこまの中れこ結をよこうこすぐし
つるやこうかるべての心れこうこうこそこ
こる物をとりいこうこうこうぐこよこをて義と
をこうゆんやもぐこうこすげこうこそるぐこれむ
つびこうこつづきんい歌流とこのえとこここ
いのこうあるつこうをくこれこうこうここここ
細 樓 歌流 物語の中こうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこ

三 樓 歌流と出ハ勝月東こ

女こを地しこうこんこよ
物女こをこうここんこうた
こうここ。女ここの中こうこの心
中こあるこの心流の流色
くこのこうこ。

こうここあるこうこうこくよ
お流の物こうこくこそあま
こうのこうこけ色こうこ。こも
女このこうあるこ

を中こ。こうこ。こうこ。こうこ

[illegible]

[illegible]

三人よ廉製せし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月にくもりなくて
世をもうらぬる女三の宮
しらぬ世を紫雲の宮
て懷姫のもとにもも
ぬ所の宮の
ふのうこの所ひろ比
秘密上の歌の所ふ
れよ乳母て女三の宮
しうらぬる紫雲の安
くもりなくて世
ふふうの所ふいろ
まもて懷姫の所よ
ぬくうらくしさと比
雅量と

うらもうらぬるのうやびと
をうつをべさみうしひ
秘四もうらのみやびとい
四もうをべのみうよん
いうしうしうの中ね

と
ひ
ひ
の
し
法
つ
を
ば
く
わ
ら
ぐ
く
う
て
ま
ま
の
れ
う
し
ま
法
し
ま
ま
ま

うちくのあさまし〜さを
ぬ 春さるは朱雀の方
うめさくに源のぞろそ
くろろし世ぐうん西どん
ぐるーくちひつげけの之

おもろどよちひとこゆ
るあろしよ 女三宮
ふる世のうしめ〜くゆ
ありとも源の方ぞ
えあひつつぞ人の又
よむるあどのどうろ
いなかぐさしてそひ
つるよどや朱雀は紙
をとうと安立てのゆせ
うそとと又ゆるるの之
ぬ柏木のうをちと白
ぬてのうろ

人ぬ
くうう
めとべさ
ありひる
ぬぬ
ぬ
ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

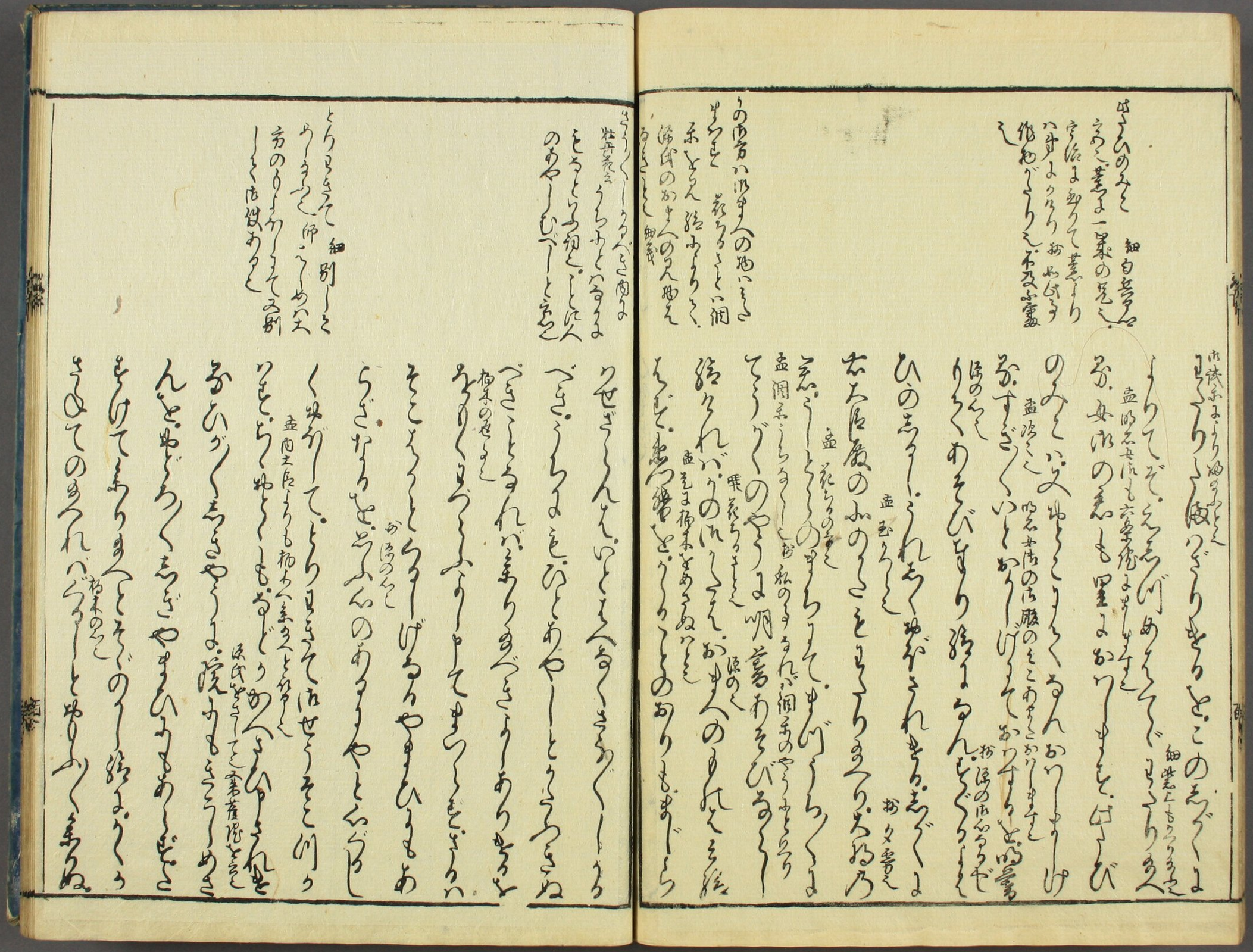
[illegible]

の さ あ 絵 よ ま ま れ り

[illegible]

[illegible]

[illegible]



上達アル中ト
暁 源氏と和本とつはよ源氏ものがたり
ゐ源氏ハ蔵本ものがたり
例のけぢうさうすのうちよりうれて
りやのうすゆうておりまする
いてくやをくるあをそて例もわうう
よろやぶうさいやうとの えぐう
よいりてうれくいてうういまうがなし
づめうう風そこしなりをいてうをつめて
月をとをへうへうあ
さうひうふう風をうどうみうそうの位う
とうまうくうんよさうまうとう
をまうをうそうめう風のうれもく
いてうひやりるうさうそいとつをゆうう
さうれうどはめとまれどうげるくい

細源の句おさうしうるなて別句なしとも
とうのうしくそのうくうるくて別句も
ざうのうめうひううろのいうとまるうさ
よ源の位愛のうあううよ拾ひ活入をの
のうう
つうきうろうまうくうあううしうとつき
盂迫こ本迫
をあうれいばえうひのうくうりあんでう
のうくうるんいりぬのはうちうあうくうを
位賀うるうどいうんいくうくうしうとうれ
どうんよ細源のう源ひ知うりうくんのうどあうく
なうりよけううとはうんをうせむしてゆひ
うるうどううくうくうめうそのうくうとうう

義法華経薬師如来
のかうういふ所師法賀
よハ毒命経ものこうむ
ゆへ法うとうつ所
うりね 細源法句部うう
てゆうまうてかよいうう
おいうもけハ特進へ家
ハ衣裟をもううの

鉢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひ人のさうそくのことをみくるに
[illegible]人なく[illegible]
よいとぐらくさんちゃうひそふもげよひ
たいとうさんそ物ちゃうのふとう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今は源中納言の曲はわうぎょう　皇麞　陵王　落蹲　太平樂　喜春樂　等系の名なり

うちおうげよりづきいぐるうらうへ
をあんじとるすみたるのはよの曲なのとけ
ぐるのニ帝ぐるる　或人々の文の岩房のう
ちといひし今は源中納言のはよ白鳥麞太
お舞楽のよおいるうの腹と　のゆかいるのこ三帝玉陵玉太平廣の岩帝
玉落蹲ぎたとあいいるるる乾元樂な
どいふまひどもをるんゆみでれるるるひ
のえをゆるるるうらうどれ第ろうれゆけ
へうとあげうをまてうりちけうまうら
よいるうんてうされむまごのうどちのう
うらすぐうとうさまひのうあるうのう
ぬてをつるるるうれ師どりうをのくてう

うちもくるしさとうて
つるる　お舞陽のうるる舞
はまうごのはうえうあ

皇麞
と舞人し師むまごの
舞と感じうて

曲むまごと　細
皇麞
と舞人し師むまごの
舞と感じうて

岩のうるのうるるりてう
ちまうるる　細　うるるるる
ての舞し　三ちうえむ
ちもるうさんとうて絵
のうふしおよ月もあう
ぬんとしもうあり
うう春よゆうね年月よ
盃古引うう酒よ年を
ゆうるんうりもあんど西
うるうひやうもにうと

人々ものけよまあらんかしてと　盃　傍の梅木をえすの目をえさく梅木のもとをうく
ちひてやどく梅のもと

して　まくとよ　らちもいてくるやきうれば
いてどうさくことめもとまくぬこうちもる
人まうをうとうそうとうそうとうひしつく
の給　うちうれのやうるれどいとぐむよつぶ
れくさうる月のめぐりうちもうらうくお
ぐあれば　細流ものと流るる　乳色ぐうちうてまぐうつとを
梅花の乳色流れんじ　梅わる盃をとりを京ぐ
ちるうちもんべたちうくてりてどづく
うあうでのんみてどあり　梅のうち　こうちうさうぐ
つくくうとぐうれぐまぐうもとうてぬよ
まで給あうまくよいうくまどひく

梅の木の
剣のいと
ぬ紙いうるれいうるんつまくと
をいうよ　けの乃ぐりあうしわいてうさえ
どうあくどうちまけうさいえてぬと
いつひうくもまけうれとうづくうひ
ちうくちぐうの乃ひ乃まどひうまわう
ぐうちやどくいくうまづくひうふ
給仕の乃ぐ　細流ものと　梅ぐ　給仕のくうの梅ぐうんと
ちくふの方ぐうくぐて　くそく
うていくぐつうみうて　歌よわくて
まうり給を　女えの梅ぐうちうあ
ううづうう　梅木のくて
ううのどうよ　あひあどけうていと

つまくうとをひうるよ
梅原のふうて臨して
ありうくうんうくうり
と梅木の紙とをひうり
まつ

しまくうてうくつ
ちうくうて　細一寸　梅木えよ梅
しまくをとうびうせさ
まうくう　盃　梅木のうり
梅木と給仕のうえうう
しまつ
あひあどけうて　細　給仕えう
末とをひうよ　今八給梅
う　梅　梅木もうどけうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大臣於六十寺修誦永延二年三月十四日法興院大入道六十賀公分今月修
誦於六十寺今案所修の誦経の年齢の数と為るを
也平の所修なれば平なるべきなり
かつ〻は〻〻〻 細仁和寺なり 花仁和寺の四堂中尊金剛界大日なりと云
平寺の法誦経別所八又仁和寺の密堂にて摩訶毘盧遮那の法誦経あ
るべし 仏摩訶毘盧遮那佛とかるべしなり大日なり 大日経の題号なり大
毘盧遮那神変加持経と云へり 細此結語古来さまざまの説あり 法花一
えんりん不嚴之 或云後漢書逸民傳韓康傳公是韓伯休那と云る那の
字同名なるべし不審は為後人 霞端と結句とをもて〻よくよくさぐべき遠と
ありされば〻〻 結句〻〻〻